

つくば市在宅医療・介護連携推進事業

令和元年度 第1回多職種連携のための意見交換会

日時：令和元年（2019年）8月23日（金）

場所：つくば市役所 201会議室

当日の内容

- 講演 「実践報告 つながりづくりと、その先」
筑波大学医学医療系リハビリテーション科 医師 上野 友之 氏
- グループワーク 「連携のために明日から専門職（自分）そして、多職種でできること」

参加者

医師：6名	作業療法士：3名	医療ソーシャルワーカー：2名
歯科医師：4名	歯科衛生士：6名	介護福祉士：3名
薬剤師：6名	主任介護支援専門員：16名	介護職：1名
看護師：3名	介護支援専門員：10名	福祉用具専門相談員：2名
保健師：3名	訪問介護員：1名	事務職：6名
理学療法士：6名	社会福祉士：12名	その他：6名

合計：96名

意見交換会の目的

つくば市の医療と介護の専門職が、つくば市の在宅医療介護連携の推進、そして地域包括ケアシステムの構築に向けて、多職種が情報・課題の共有を行いながら顔の見える関係を共に築き、必要な具体的な取組について主体的に協議・検討を行います。

テーマ

— 市民の方が在宅生活を送ることができる地域を目指すために — 自分として、多職種としてできる具体的なアクションプラン —

前回の意見交換会（H31年1月開催）は地域の課題を共有し、課題解決のために自分の職種として、多職種でできることについて「明日からできること、半年後にできること、未来にできたら嬉しいこと」というテーマで話し合いを行いました。今回の意見交換会では実践報告として、実際に行動を起こし地域で活動されている上野先生のお話を伺い、グループワークでは前回検討した「課題解決のためにやりたいこと」を実際に行動に移すことはできたか事前アンケートで確認した上で、やりたいことを実現するための促進要因と阻害要因の共有をしました。また、改めて「明日から」「半年後」といった、より近い未来にできる具体的なアクションプランについて話し合い、更なる顔の見える関係づくりを構築することを目的とし実施しました。



飯岡医師会長より
開会のあいさつ

<意見交換会の流れ>

- ▶18：30～18：40 開会のあいさつ
- ▶18：40～19：10 講演
- ▶19：10～19：20 質疑応答
- ▶19：20～20：25 グループワーク
- ▶20：25～20：45 グループ発表
- ▶20：45～20：55 総評

講演

実践報告「つながりづくりと、その先」

筑波大学医学医療系リハビリテーション科 医師 上野 友之 氏

Duty→Mission(問題点の発見、試行錯誤)各々がMissionの仕事地域で専門職の枠、組織の枠をはみ出して進めていきたい!



**目的を共有することが大事!
「連携」は「手段」!**

筑波大学医学医療系リハビリテーション科 上野友之医師より、「医療と介護と福祉でつながる会」の立ち上げについて、会での取り組みをご紹介いただきました。講演を通して、上野先生より、疾病があっても障害があってもつながりのある社会が地域共生社会であり、それを目指していくためには専門職の立場としての自分を超えて各々が「自分の役割は何か」を考え、具体的な行動を起こすことの重要性について提示をいただきました。

※内容については、講演資料をご覧ください!

グループワーク

「連携のために明日から専門職（自分）そして、多職種でできること」

今回の意見交換会の内容

- ① 前回参加した人から「**実際に取り組んだこと、取り組むことができなかったこと**」をグループで共有。
事例から**取り組めたことの促進要因、取り組めなかった阻害要因**について協議。
- ② 「連携のために明日から専門職（自分）そして、多職種でできること」について協議。
「明日から」「半年後」誰がやるのか「医療職」「介護職」「行政（その他）」について、協議、模造紙にまとめ、グループ発表しました！先生の講評では、「行政に頼り過ぎていませんか？」とお声かけいただき、3人集まるだけでも「多職種」。敷居を低くして小さなことからでもいいので自分たちで始めることが大切であること、また顔の見える関係の一步先に何を願うかが大切であると提示いただきました！

次ページ以降は、各班の協議内容です！

